

三鷹の森学園



様式6	平成28年度 三鷹の森学園の評価・検証 結果報告	
検証項目	(1) 人間力・社会力の育成 ○他者との適切な関係を構築する力の育成 ○他者と共に自己実現を図っていく力の育成 ○地域や社会等へ貢献する力の育成 ○その他	
目標	・個性を発揮し、自己有用感を育て、自己実現を図る意欲を育てようキャリア・アントレプレナーシップ教育、オリ・パラ教育等の一層の充実を図る。	
取組	<ul style="list-style-type: none"> ・9年間の三鷹の森学園での学習・諸活動を通して地域に生きるよさや手ごたえを感じ、将来地域に貢献する資質を養う。 ・三鷹の森学園での9年間を通して、集団や社会において個性を発揮し他のために働き、個性を発揮するよさを身に付け、希望に向けて意欲的に生きる態度を育てる。 ・各学校のキャリア・アントレプレナーシップ教育、児童・生徒のボランティア活動を推進することで、児童・生徒と地域との結びつきを強める。 ・オリンピック・パラリンピック教育(以降、オリ・パラ教育)を推進する。 	
<p style="text-align: center;">成果</p> <p>【三中】「職業人の話を聞く会」「職場体験」(CS委員会からの支援)、「地域学習」(観光協会、民間企業の支援)、「防災教室」(消防団からの支援)等を実施した。職場体験、地域学習の成果報告会を実施したり、防災教室で身に付けたスキルを地域防災訓練で活用するなどの発信を行った。生徒の肯定的評価は86.3%である。</p> <p>【五小】6年の体育・英語、中1英語・理科に計画通り実施した。児童の「英語を話してみたいと思う」という意欲も高い(83%)</p> <p>【高山】英語に対する児童の意欲は85%が肯定的。高学年保護者の77%が肯定的である。CSのクリスマス英語交流会等CSの協働も一層進めたい。</p>	課題と改善方策	
	<p>次の観点から改善を図る</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学園全体で「社会に開かれた教育課程」を作成し、カリキュラム・マネジメント機能を向上させながら、「人間力」「社会力」の育成を目指す。 2. 小・中9年間の英語カリキュラムを平成29年度中で作成し、30年度実施とする。 3. CSと協働し、英語が使える実感を味わえる体験プログラムを実施する。 	
検証項目	(2) 学校運営について ○小・中一貫教育校の学園組織の活性化 ○小・中一貫教育校の教員間、学校間の交流の円滑化 ○小・中一貫教育校の校務、会議の効率化 ○その他	
目標	・三鷹の森学園の特色の明確化・焦点化を図り学園運営に当たる。また、2～3年間の中期的な視座から目標設定を行う。	
取組	<ul style="list-style-type: none"> ・学園管理職会、学園役員会を充実させ、課題解決策を話し合うと同時に、中期的な視座から新しい目標設定を図る。 ・CS委員会の活動情報を全職員が共有できるようなシステムをつくり、教員の参画意識をさらに向上させ、「コミュニティ・スクール」のよさが実感できる一体感のある学園にする。 ・学園コーディネーターの役割を重視し、学園の教育活動の調整と活性化を図る。 	
<p style="text-align: center;">成果</p> <p>【三中】生徒とともにボランティア等の活動に参加した教員は72%である。また、ボランティアに参加した教員の88%は今後も参加したいと回答しており、こうした活動に対して意欲的である。こうしたボランティア活動、地域活動については年間の見通しが立たないと参加が難しいため、次年度は年度当初に参加計画を策定できるようにしたい。</p> <p>【五小】伝達や簡単な回答にはPCを使い、検討は会議で行った。教員の目標達成88%。人財育成と組織の活性化の視点で、各会議の扱う内容を工夫したい。</p> <p>【高山】生活指導主任が連携し、各学校の生活指導の状況を校務支援システムに掲示した。学園全教員で児童・生徒の生活の状況が共有できている。</p>	課題と改善方策	
	<p>次の観点から改善を図る</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学園全体で「社会に開かれた教育課程」を編成し、CS委員会はもとより家庭、地域と連携・協働する機会の充実を図る。 2. コミュニティ・スクールの強み、小・中一貫教育の効果の検証方法を考察する 3. 「学園サポーター」を募集し、小・中を超えた人財バンクを作成し、これを活用するシステムをつくる 	

検証項目	(3) 小・中一貫教育校としての教育活動 <input type="checkbox"/> 小・中学校間相互乗り入れ授業 <input type="checkbox"/> 小学校相互、小・中学校間の児童・生徒の交流活動 <input type="checkbox"/> 小・中学校教員 <input type="checkbox"/> キャリア教育及びそれに基づく小・中の系統性と連続性を明確にした授業実践、授業改善の状況 <input type="checkbox"/> その他	
目標	・次期学習指導要領の方向性を踏まえた資質・能力の育成とその指導法に関する研究を進める。	
取組	・小・中学校が共通の指導観と発達段階に応じたアクティブ・ラーニングが実践されるよう学園研究の充実に努め学園研究を中核に「考え、論議する道徳」の授業を究明する。 ・家庭学習時間の意義や行動目標をCS委員会と共同で作成し、家庭への啓発活動を推進する。 ・生活指導に関する諸課題について適宜情報交換し、一貫教育校としての継続指導を実践する。	
成果 【三中】6月には小学校の児童会との交流でいじめを、生徒会役員のリードで実施。9月までには生徒会議の成果としてSNS学校ルールを策定した。生徒会く、改選後の新役員会も校内ボランティア活動の推進を進めている。 【五小】講話、授業研究会(3校)を実施し、道徳について結果、「考え、議論する道徳」の評価について学ぶ実践を積み重ね、質の高い多様な指導方法を展開し 【高山】児童の学習に対する意欲は90%が肯定的0%以上が学校がアクティブラーニングに取り組むこ	課題と改善方策 次の観点から改善を図る 1. 新学習指導要領についての教員研修の推進 2. 新学習指導要領の趣旨・内容などに関する保護者実 3. 小学校児童会、中学校生徒会の一層の協働活動の	
検証項目	(4) 児童・生徒の学力・健全育成 <input type="checkbox"/> 児童・生徒の学習意欲 <input type="checkbox"/> 各学年での児童・生徒の学習内容の定着状況(習得、活用、探究) <input type="checkbox"/> 小学校と中学校の評価の一貫性 <input type="checkbox"/> 不登校、学校不適応等に関わる児童・生徒の指導・支援	
目標	学力 ・基礎基本の定着、思考力・表現力・判断力の育成・向上を適宜評価し、9年間の発達段階に応じて授業の	健全 ・いじめ、不登校、問題行動等に迅速・適切に対応できるよう教育相談機能の向上を図る。
取組	学力 ・小学校では、第4学年までの国語、算数の基礎基本の確実な定着(完全習得率90%)を目標値とする。 ・中学校では、第1学年では、小学校5学年までの漢字習得、数学は文字式と方程式の計算を90%を目標と確に表現することを90%を目標とする。 ・全教科の指導で言語活動を有効に取り入れ、児童・生徒が主体的に考え、表現する能力の向上を図る。	健全 ・いじめの防止に向けて、いじめ防止対策の改善を図る。 ・校内組織の教育相談的対応力を向上するために、養護教諭やスクールカウンセラー、諸機関との連携、3校・地域への帰属意識を高めるために学園の実態に合った取り組みを工夫するとともに、自他の生命や生活を
成果	課題と改善方策	
学力 【三中】校内研修会において模擬授業を実施して具体行ったが、十分な取り組みには至っていないため次年度、主体的・対話的な学習を通して理解を深める授業の生徒が「行われている」と回答している。 【五小】每学期診断プリントを実施し結果を補習に生均正答率は5年1学期から6年2学期に6.6%向上。取組することは楽しいは87%と学ぶことに意欲的である。 【高山】木曜日に7校時を設定・実施して2年目となる肯定的。保護者(高学年)も80%以上が肯定的となった。全体の肯定的評価も56%(27年度)が向上した。	学力 次の観点から改善を図る 1. 言語能力、情報処理能力、問題発見・解決能力等能力の育成を図る 2. 各教科の特性を生かした言語活動、体験活動やICTの習の充実を図る。 3. 学習活動を実施にあたり家庭や地域との連携・協働	
健全育成 【三中】行事実行委員会や班長会の組織は全学年で動会や合唱コンクールの実行委員会は実施までの取信したり、実施後の成果について生徒がプレゼンテーションしている。生徒自身の自己評価も高い。次年度以降も継続できた。児童も「自分からすすんであいさつをしている」が肯定的である。 【高山】いじめの認知・発見件数は昨年度より増えてへの取組を着実に実施している。	健全育成 次の観点から改善を図る 1. 「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」を児童・活性化を図る 2. 障がいのある子供、海外から帰国した子供、不登校配慮を必要とする子供への指導の充実を図る 3. 指導にあたり家庭や関連諸機関、地域との連携・協働	

検証項目	(5) コミュニティ・スクールの運営	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ コミュニティ・スクール委員会の組織・運営 ○ 保護者、地域住民の学校運営への参画の状況 ○ 学校と保護者、地域住民との連携・交流 ○ その他 	
取組	<ul style="list-style-type: none"> ・「三鷹の森学園小中一貫・三位一体アクティブラーニング」を活用し、家庭・地域への「6つの学習習慣」の定着にむけた取り組み周知する。 ・開園10周年を新たなスタートとできるよう新時代の学園構想を論議する。 ・保護者・地域により存在感のあるCS委員会にするために、3部会の活動をさらに工夫改善する。 ・「広報部」は、広報誌の内容・デザインの刷新、発信方法の検討。「地域・サポート部」は、地域音楽祭の開催に向けての企画・準備。「評価部」は、「チェック」+「プラン」までの役割を担う。 	
成果	課題と改善方策	
<p>【三中】ページの訪問者数は昨年度の680名に対して今年度は710名で前年比4ポイント増であった(10月末)。時期に応じた情報提供の機能は果たしているが、生徒や保護者の不安や疑問に対応するなど、単なる情報提供から一歩踏み込んだアドバイス機能については不十分であったため、次年度の重点とする。</p> <p>【五小】五小だより9月号から児童の取組について記事を掲載した。結果、アクティブラーニングに関する質問項目において保護者からは「6つの『学びのスタンダード』の普及に努めている」で59%の肯定的評価を得た。</p> <p>【高山】・保護者の「三位一体アクティブラーニングが目指す学びのスタンダード」の認知度・肯定感は60%である。これは前年度より20%アップしている。CSによるリーフレット作成、評価部評価号の発信などの成果によるところが大きい。</p>	<p>次の観点から改善を図る</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 三鷹の森学園の「教育目標」の改訂(見直し・捉え直し)を行う。 2. 改訂学園教育目標を効果的に発信し、さらに三鷹の森学園の存在価値を高める 3. やりがいのあるCS委員会づくり 	
平成28年度 三鷹の森学園の評価・検証結果のまとめ		
(1) から (5) の検証結果を踏まえて	<p>1 「小中一貫教育」及び「コミュニティ・スクール」の取組において特によい成果が得られたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領への対応が学園全体で高い意識をもって一斉に実施できていること ・学力の向上においては、小・小の指導方法の一体的な研究、小・中の発達段階を踏まえた連続的な指導の成果が出ていること ・CS委員の全員(100%)が学園・学校の教育課程編成にCS委員の意見が生かされていると感じていること(教育委員会調査結果より) <p>2 今年度に明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫英語カリキュラムの作成と実施準備 ・教育活動支援者(「学園サポーター」仮称)の学園単位での整理と活用方法など一般的な運用方法の見直し <p>3 「2」の重点課題を解決するための改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市教育委員会によるカリキュラム作成委員会と並行した学園研修の計画・進行 ・CS委員会(地域・サポート部)において年間テーマとして取り組む。サポーター登録から学校への派遣が可能となるよう30年度内には完全実施を目指す。 	